



中四国 いしよん いんへしおん

2016年5月
第8号

企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター

今月の紹介

「苦しんでいる人を救いたい」 — 戦場から生まれた赤十字思想 —

「戦場の負傷者は敵味方の区別なく救護するべきだ」という赤十字思想は、スイス人実業家のアンリー・デュナン（1828-1910年）によって実践・提唱されたものです。

1859年のイタリアのソルフェリーノで、デュナンが悲惨な戦場を目撃し、自ら救護に立ち上がったことがそのきっかけでした。

毎年5月は「赤十字運動月間」として、全国各地で赤十字思想の普及啓発のキャンペーンを実施しています。赤十字思想の生みの親であるアンリー・デュナンの誕生日（5月8日）が、世界各国や地域で赤十字活動への理解と参加を呼びかける「世界赤十字デー」であること、5月1日が日本赤十字社の創立記念日であることから、5月を「赤十字運動月間」として実施しています。

190の国と地域で活動する世界最大の人道機関「Red Cross」ですが、日本赤十字社はそのうちの1社であり、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを9つの形（国内災害救護・国際活動・赤十字病院・看護師等の教育・血液事業・救急法等の講習・青少年赤十字・社会福祉・赤十字ボランティア）にして事業を展開しています。

その1つである血液事業を私達血液センター職員は担っているわけですが、「枕元輸血」が普及していた我が国で日本赤十字社血液銀行が開設されたことが血液事業の始まりです（S27）。一時は民間商業血液銀行による売血が盛んになり、献血者が激減しましたが、血液の適正利用と採血により生ずる保健衛生上の危害防止、供血者の保護を目的とした「採血及び供血あっせん業取締法」（採供法）が制定されました（S31）。ライシャワー事件を機に献血推進の機運が高まり、輸血用血液は献血で確保するとの閣議決定（S39）、その後にはその体制が確立されました。種々の血液検査、200mL献血から400mL献血・成分献血へ、遡及調査・NAT検査導入など、安全な輸血用血液を供給するための努力をしてきました。採供法が「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に改称され（H15）、薬害エイズを繰り返さないためにも安全性の向上や安定供給の確保等に拡大するとともに、血液事業の運営指針となる基本理念、関係者の責務についても規定されました。安全対策の一環として個別検体によるNATスクリーニングも開始しています（H26.8）。

2011年3月11日、東北地方に未曾有の被害を及ぼした東日本大震災の発生直後、全国各地の赤十字病院などから医療救護班が55チーム、薬やミルクなどを持つて被災地に出動しています。全国の血液センターからも職員が出動すると共に、東北地方に数か月間血液製剤を送付、そのための検査・製剤を他ブロックでするため当ブロックからも業務量の多いセンターへ応援にも行きました。

近い将来予想される南海トラフ地震の発生に備え、中四国9県の血液センターは災害時にも医療機関へ安定的に血液製剤を供給できる体制作りに努めています。

日本赤十字社は「人間を救うのは、人間だ。」をスローガンにこれからも活動してまいりますので、皆様の赤十字思想へのご理解ご協力と共に血液事業へのご理解ご協力をよろしくお願い致します。

（中四国ブロック血液センター 企画課 玉置洋介）



アニメで盛り上がり献血! 「マチ★アソビ」で「ケツエキ☆ツメ」



「貴様の剣には、決定的に誇りが欠けている。」(ランサー, 2004) でお馴染みのアニメ、Fate/stay night。この人気作品に乗っかれ! 恵みにあずからう! と徳島県赤十字血液センター(以降、「徳島センター」)が作成したのはコラボポスター。この“誇りある”剣を手に徳島県のアニメイベント「マチ★アソビ」で若年層献血者減少という敵に挑んで早3年。普段は無関心を装う若者が、意識して献血に来てくれます。昨年10月、15回目となるマチ★アソビでは、3日間で約600名の献血者が全国から集まり、そのうち30代までの若年層献血者は何と約70%という高い割合を占めます。

期間中、有名声優さんによるトークショーやライブ、コスプレショーなどが開催され、3日間の来場者は80,000人超。徳島駅前や商店街を練り歩くコスプレイヤーが街を彩ります。全身防具の騎士や髪がピンクの女子高生、水着姿のおじさんもいれば、ネコ耳着けたお婆ちゃんまでさまざまです。

イベントでの素敵なお出会いを紹介します。コスプレ青年「銀ちゃん」・・・アニメの中ではぐうたらでだらしがなく、お金に意地汚く卑猥なことばかり言う、無気力で死んだ魚のような目をしている侍です。ところが現実の銀ちゃんは、「献血、します。必要としている人がいるんですよね!」と澄んだ目で言う現代の侍。余りのギャップに「キャラが違う」と職員がツッコミを入れるほど。献血を終えた銀ちゃんは「アニメの中では弱い人を助けているからね。現実でも同じことをしたまでさ」と、ドヤ顔でポスターを大事そうに握り締め、アニメの街に消えて行きます。

熱中するものは人それぞれ。スポーツだったり、読書だったり、玩具だったり。その中で、「アニメ」と「献血」に興味をもってご協力下さる方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この熱

が周囲に伝わり「弱い人を助ける」人が一人でも増えることを切に願っています。

本誌が発行される日には、16回目となるイベントが無事に終了していることでしょう。今回はどういう奇抜な方に出会えるのか、どんな熱い気持ちをいただけなのか、楽しみです。

(徳島県赤十字血液センター 献血推進課 藤倉温)

